

# 堅塁長篠城の地形

長篠城（永正5<1508>年～天正4<1576>年）

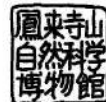
博物館ザッ記 2020-14

## 長篠の攻防（天正3<1575>年5月）

武田勝頼は、約15,000の軍勢で長篠城を包囲しました。築平貞昌を城主とする築平勢約500は、少人数ながらも激しく応戦し、何度も撃退しましたが、しだいに追い込まれ、鳥居強右衛門らを使者に、家康のもとへ援軍要請に走らされました。

今川家の家臣であった菅沼元成によって築城されました。東三河の平野部と山地との境界に位置し、遠江・美濃、伊那方面への街道の分岐点で、交通の要衝でした。その為、重要な拠点として、今川、武田、徳川が争奪戦をくりひろげました。そして、天正3年の長篠・設楽原の戦いにつながりました。

〔国指定史跡、日本百名城〕



長篠城は、三方向を急崖に囲まれ、天然の要害になっています。その為、北側に堀と土塁を設けて敵の侵攻を食いとめました。

豊川が中央構造線長篠露頭の下流側で90°以上屈曲し、さらに宇連川との合流点で再び屈曲しているため、あたかも大規模な堀に守られている地形になっています。本丸の脇は基石川が段丘礫層と基盤岩を鋭く削り込んで、幾重にも守りを固めています。

基盤岩は三波川帯の結晶片岩ですが、中央構造線の断層活動で断層岩となっていて、もろく侵食に弱いために急な崖を作ります。ですから簡単には攻め登ることができません。

長篠城は低位段丘面にあります。段丘堆積層は薄く、すぐ下に不透水層の基盤岩が現れます。地面を少し掘れば、生命をつなぐ水を得ることができました。

## 段丘地形

長篠城があった低位段丘面は、現在、飯田線の線路が走っています。長篠城址史跡保存館進入路付近からの登り坂が段丘崖です。坂を登った平らの面が中位段丘面になります。新城市鳳来総合支所が建っている面です。

## 地形を観る

長篠城とその周辺の地形を観察するには、鳳ヶ築砦跡か中山砦跡がおすすです。武田軍が長篠城を包囲し、城内の動きを監視した場所です。